



入 繪
本約撮陰法
梅ヶ谷川
二
別紙

特別
〜13
1756
2





本朝櫻陰比事

目録

卷二



一 十束乃中ちやうや中ちゆうちゆう

黒岩の森地がして是
ては死人の血なる事

二 蕙平ちひら此こゝ詠よみる

利は園をこそ者どらハ
望川松の月にとほふ事

三 佛ほとけの夢ゆめは十目

夢見の空掃ふは極楽
嶽に合ふ光る事

四 恨うらみは子この道みちにた行ゆく

腸裂けて悔しき心は神か
女の信は毎にわ時ふ事

五 俄大乃於乃費つめ

縁引とておぼえて安んずる
うらやみ計のあつた事

六 翹銷すき約目安しん

今時の世間をいふは
おの長羽織はき事

七 就身とて安んずるけんが

就のまればおぼえて
おの目ねり佛言す事

八 死人の目前の世し

扱とてや捕とれぬ
おの目ねり佛言す事

九 京に臨みたる女志きやう

女志とて女海世の事
女の利を先取りする事

一 十葉乃中事じゅう

むく劫の町に時を念佛嘆我乃事未始とて
色細長よあまを付けてつとむる言別世界れん後
生れざるなりぬれり十葉なれを僧侶にも
扱あけり海を動さしむる目ももんえぬ極
ふと彩ひ女月の移るふ海とむすびは曉乃
ころむく山も曉て松東通りの門をさしこせ戸
を明けれども年れば中この言をむざりれども
珠粒をうけながら胸骨を失ひ根を通さされ死
ぬる一箇人のあつて是は大佛乃まんな信燈の安んず
りもぞいふ事とて縁へ入るりや信の安んずる
さうけりてなげく事候す事おの事

よ宿と云ふは因縁やうれはなり人念佛海は海
ゆらまゝ一がさしといふは因縁がまは因行をい
まてけ事と縁りりは海申れあめく皆老人を
いひおと世の縁をいひすまは一人をいひては
若死と信ともいふは我く縁の業をわくまは縁は
このことあひて善悪をいひて人くまは
ゆらまゝ奉行をいひては新法をいひては極
くは食後のそだされ目から縁のわく老いたるま
らほごうはあはし時を思ひ付くお別して念比
なほいひ人信をいひては年不同まはぬ人の名
まゝいひては一人はあはし一はこれけ系書は
らぬ子細と云ふせらまゝいひては縁のなまては

よ宿と云ふは因縁やうれはなり人念佛海は海
ゆらまゝ一がさしといふは因縁がまは因行をい
まてけ事と縁りりは海申れあめく皆老人を
いひおと世の縁をいひすまは一人をいひては
若死と信ともいふは我く縁の業をわくまは縁は
このことあひて善悪をいひて人くまは
ゆらまゝ奉行をいひては新法をいひては極
くは食後のそだされ目から縁のわく老いたるま
らほごうはあはし時を思ひ付くお別して念比
なほいひ人信をいひては年不同まはぬ人の名
まゝいひては一人はあはし一はこれけ系書は
らぬ子細と云ふせらまゝいひては縁のなまては



櫻門卷二

四

くくけ世は若ありと斬陰より強し後
人より海さい男に繩をうけ子細の奉行不
まひれど町にさうき町中跡すあいつめら
よ修せむとれいおあれ女の去年海木町
よまう男の妻なほ存すと思案ありて
是より中よりつらうは世は和よの道所
よ似合ざらば是持世事必なり。いひ
ありやと修せむとれい男すこしと
さずひまうの親代よりあはあはは
らう掛玉し不子望人よらるる後年
くと西たなくおかゆとあぐる
一修せむとれい夫とらるる
一修せむとれい夫とらるる

こはうせと世は若ありと斬陰より強し後
人より海さい男に繩をうけ子細の奉行不
まひれど町にさうき町中跡すあいつめら
よ修せむとれいおあれ女の去年海木町
よまう男の妻なほ存すと思案ありて
是より中よりつらうは世は和よの道所
よ似合ざらば是持世事必なり。いひ
ありやと修せむとれい男すこしと
さずひまうの親代よりあはあはは
らう掛玉し不子望人よらるる後年
くと西たなくおかゆとあぐる
一修せむとれい夫とらるる
一修せむとれい夫とらるる

二、急平丸観の

むう、熱乃町、油谷、一、山、勝、事、な、り、大
と、い、ま、の、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、
と、い、ふ、言、葉、は、別、々、と、い、て、馬、路、は、馬、路、

ど、傍、ら、ま、い、る、時、に、里、人、は、は、い、い、と、い、て、
本、寺、に、ま、い、り、と、言、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
は、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、
さ、れ、ぬ、と、い、ふ、者、乃、知、れ、ぬ、と、い、て、

山田集巻之八

小龍とめくれば、あつれが、一掃、
さぐり、今の先、とく、この、
山、
松七社の、
転と、
なりと、
を、

三 佛の、

むう、
の時、
明、
と、

一、
と、
焼、
新、
で、
な、
佛、
し、
金、
ま、
読、
ま、

多岐のねをり世びびを佛の法に候はるる
てふもよと振て笑ひ世の中の名もつ子物思
事なるもよとを判令千般をり候も
て物なるふび存に各別ある候もあつて
なごも海に事なるもあつたもあつたも
せらるるなるも佛せるとも候もあつたも
同くして候も諸道具とあつたも一
つ一物とあつたもあつたもあつたも
す候もねも佛もあつたもあつたも
ハ消炭燧ごもあつたもあつたも
も候もねも佛もあつたもあつたも
ハ候もねも佛もあつたもあつたも
ハ候もねも佛もあつたもあつたも

あつたもねも佛もあつたもあつたも
ひ今二三寸下此候もあつたもあつたも
に候もねも佛もあつたもあつたも
を連との事候もあつたもあつたも
一候もねも佛もあつたもあつたも
ねも佛もあつたもあつたもあつたも
か物なるも佛もあつたもあつたも
くも拂ひぬ候もあつたもあつたも
た候もねも佛もあつたもあつたも
乃物なるも佛もあつたもあつたも
の候もねも佛もあつたもあつたも

こそ三日月の影に照らされし
 色に金佛の年教何れぞ
 七身は土中にありし物
 されて千舟の若にほせら
 したる事も消えらばは
 い後生形ひともせうけ
 け事多てあつてもお自
 うれをあらうし糸粒の
 う馴念ひを後たゆま
 は子自依中へけ時傳



仕やうもつて仕出されし時、新道に集りて、此の首の
登事とてあへんや、さし置孫とす。よふ家おの
世れ其男孫、佛の眼とぬく事、極くも、月を
なり。意を仕立にや、付て、若かれども、いふ
若くも、あきらむ、これ、命ハ、恥、懸ける、あ
佛と、歎の、柄、よ、け、て、く、げ、く、せ、右の、泥、舟、を、れ、よ
志、係、一、清、平、三、月、が、同、は、り、せ、て、後、生、還、入、の、息
を、誅、人、よ、ら、ん、と、せ、中、後、系、統、を、追、拂、さ、べ、く、又、世、を
の、後、の、世、利、の、あ、き、ひ、は、信、宗、事、を、誅、人、ち、ら、ん、と、是、に、よ
以、て、禱、か、し、ま、ぬ、と、誓、し、て、た、れ、と、お、け、新、道、を、身、は、日
半、に、は、り、係、づ、く、と、信、せ、付、し、建、り、係、と、也

四 振とて、方、與、和、縁、付

む、く、教、の、町、に、藤、子、座、女、乃、名、大、美、の、山、林、と、て、さ、さ、ま
が、く、あ、ま、乃、を、あ、め、と、て、む、き、あ、ま、乃、を、あ、れ、信、と、て、を
々、係、の、び、女、信、心、い、ち、な、れ、て、歎、に、目、の、ろ、ろ、え、ぬ、事、人、を
男、に、お、け、係、子、細、い、は、ん、も、の、あ、應、く、も、て、一、生、れ、を
一、種、の、あ、く、之、あ、以、て、信、宗、と、て、成、系、信、の、と、思、ひ、定、め、て
東、寺、の、行、院、に、信、宗、を、あ、ら、し、め、せ、し、月、目、と、お、け、り、
う、ら、り、よ、ま、ま、人、の、物、信、り、に、及、ぬ、れ、う、係、り、し、事、事、と、信、人
あ、り、て、合、信、を、よ、て、な、信、事、を、あ、ら、し、め、り、し、山、林、合、系
して、先、婦、の、誓、と、な、り、ぬ、ま、こ、の、あ、あ、ら、に、信、を、せ、
あ、ら、し、め、る、事、と、お、け、り、し、る、が、び、女、目、求、の、若、者、ゆ、に、信、を、
内、籠、り、す、か、ら、し、り、て、月、目、信、海、に、さ、り、男、に、つ、く、高、き

て胸と懐と云ふはけのちや。なかに着るさうり乃
掌人のなあるとて懐が懐と云ふかゝるやうく着け
懐かひ男に心を移しあひく縁の物来してそ懐の
作病を充てて懐の懐と云ふもくして代筆に事せて
そ男と女とに云ひてはまじき事と云ふは男の
か之仲人なすにりて世間と云ふも事と云ふは
見んて云ひ女を愛めを懐てやと云ふの男は男に
て懐の懐のなすぬわうらと云ふす程かと思ひ云ひ
胸やりの事なれども死後はと世れゆはに女ゆく
事とは懐くとも女なりし懐しぬは云ふ之程の程
らるは世間の事と云ふは純紙しては云ふ人か所よおる懐く
おわてはいしよと云ふ事町中を切之人も令れ終あ

懐かかすことまじきことなり時よは掌令やせし我るん
男にわ懐事親親と云ふ懐かかすは云ふ事か
ことと云ふは懐事なるとも云ふも云ふに氣づくひか懐と
懐かかすを云ふは懐かかすのけが懐く事と云ふは
と云ふ掌人をありれと云ふは懐かかすに懐かかす
懐ての通りよと云ふは懐かかすに懐かかす
懐かかすの懐かかすに懐かかすに懐かかす
乃んよか懐事に懐かかすに懐かかすに懐かかす
なすかかすに懐かかすに懐かかすに懐かかす
に云ふ何れと云ふは懐かかすに懐かかすに懐かかす
づり乃あるは懐かかすに懐かかすに懐かかす
くは懐かかすの懐かかすに懐かかすに懐かかす

桑くし出し。俄子いふ後とをかくしし是後での
縁とそんじ初めの通りとさうせし交にぢれより
九日月子函を縁子付しび男存より別してかこ
つししがさう後いままのりうぬし是より卯の何れももぬ
なつら後する松子さうめこれをも交婚めよせ
らきびあゝ家通子極ゆるか大悪人也又男と月
比後とあゝ申しびの縁絶あゝ子細かゝとも世
乃義理相とつた縁海とさう也男のよにおあゝ
時よりなれあゝ縁の海とさうな。ありれま
くさあにおあゝ携同とあゝ信せおさけおれ
な悪人よ故文付しきかゝおあゝとさうおらま
無れはあゝのなれどもさう胸の杖をぬてのこ

なれを命のゆゑしとあゝ鼻とさうさ田力の松合を
拂ひ家報に玉ゆと信せ付とせられ。さ後け
悪人とらうあゝされびの縁絶いせんこの縁子
そ方かまゝとさうあり。かあさうさ。あゝさ
るらびら縁とさう通一の縁絶を感しける也

五 俄大工の敷

ひう初めの所と信あゝの悪門よりんまば民あゝさ
川とさうとさうとさう。縁本屋りて三階屋の自雲子
月後ろひの悪因縁とさうあれ縁の長若れ花とさう
あゝさ家通てとさうさうして野末と今ん命かあゝ
そ比七家通りとさう家通してあゝさうにの悪く
年に命限と所の命とら也。悪屋いんあゝのゆゑ



の不念とあるも、地底田島も、その底をたぐり、
 町並をめぐり、きりぎりすの細なす。今日の甲のしる縄引
 らぬを切らぬ。おののち、理ぬわたり、けり、
 なし。あれ者、つらりものす。そのむね、
 きりぎりす、俄に大目、
 うらら、
 うれし、
 涙を、
 引く、
 と、
 千、
 若く、

くれた、おのれ、
 石、
 す、
 是、
 に、
 れ、
 一、
 派、
 な、

六 鯛鮓すき釣目安

む、
 柳、

了男体つてうきうきと事奉りて。為目女を廻て
 振ふるなり半付相おれ名となく二年八節して。中敷
 ぬれ湯浴子純付ぬし。役人衣をき。ゆで湯あひ。は
 尸らぬ衣表衣を廻おき。なまきに。おめて。相浴し。尸
 さ。浴べと。湯裏。舞おされ。又。門。拍子。純付。お。お。り。則
 ち。舞。お。は。て。か。さ。う。れ。より。十日。身。を。ま。て。う。き。湯。威。光
 と。も。ゆ。で。黄。掛。お。手。後。れ。あ。り。か。く。お。ど。も。て。は
 つ。り。い。と。は。お。と。して。湯。舞。と。通。進。尸。あ。げ。ら。れ。湯。舞。役。人。を
 と。不。思。義。に。ぞ。ん。と。ら。き。湯。舞。姫。乃。時。分。湯。舞。ひ。で。尸
 と。お。た。び。目。女。い。事。く。の。黄。掛。な。り。今。時。の。世。間。を
 び。お。解。し。た。ら。し。と。湯。舞。ひ。あ。そ。を。さ。れ。ら。れ。と。也

七

純年と家あひの事

む。う。如。乃。町。を。つ。き。山。野。の。片。伝。に。竹。貝。酒。を。あ。ん。せ。れ。舞
 奏。し。て。俄。分。限。れ。者。ら。も。必。業。ゆ。成。に。ま。さ。う。ひ。め。つ。つ。ひ
 と。あ。は。し。る。中。に。物。遣。に。舞。女。見。送。花。車。に。う。き。し。り
 ぶ。の。比。より。う。き。梅。を。お。も。は。り。懐。中。に。懐。巾。を。う。き。ひ。な。し。懐
 中。今。味。仕。む。して。男。い。う。け。成。ぞ。と。う。海。ぐ。よ。同。様。と
 と。又。湯。く。蒸。して。尸。さ。ぬ。事。と。あ。そ。を。花。角。家。の。不。成
 法。者。連。ぞ。海。賊。お。し。て。親。の。洋。へ。海。さ。れ。ら。れ。う。れ。よ
 尸。さ。す。は。お。あ。り。と。も。さ。て。け。言。う。ら。同。年。の。い。な。ら。う
 て。う。ち。梅。の。花。を。お。げ。る。と。色。さ。り。て。時。と。も。や。息。絶
 て。せ。ん。な。り。い。ま。の。こ。子。と。な。り。て。孫。子。お。ま。き。也。義
 別。して。な。げ。さ。ゆ。う。と。孫。と。い。へ。ハ。生。回。せ。ぬ。の。今。て

糸の糸糸となつてきやうく女房の門前集り
 て野をこぼりて用さす時、技指の女乳を
 子を抱てはらひきりておびあ、ねはけ男もなりと
 ぬ乃清も掛られて平養せ、半歩ふれなり。は
 首尾も代ぐられ何ぐとも存ぐられと。お
 常れやともさすもめ時、お代におてはらひゆ
 めれともきぬ事とせえび脱しおぬぬよりけ子
 乃重ぬひ抱とおてまのぬおのふ、我おのそ方お親
 作とあすともてをび女も代はあぐも付らぬあ
 しまは海なき子なれども、おのまが親うもあなほ
 に由建ありながりあふぬよ、天のぞあもあ
 る、勝多替てはらひきりて、白衣のぬけて、舊帽子

いふてそまきのおまの面つづきとさぐ。死人押へ
 ての難儀なげさ乃申の新儀、右の信、法あ
 へ、あがいに、身代とめられおれ、輝字のまら子にて
 ある、傷りなりくせと、勝更儀乃時、おねのまらあ
 ら、由建の事、おんせす、おの親孫、おれ、おへ親
 う、す、付、き、き、毎月、毎日、に、報、子、平、目、行、つ、お、て、ま
 け、り、ぬ、より、ゆ、れ、り、細、い、ぞ、ん、ト、多、く、は、づ、つ、す、ぬ、と、ま、と
 志、何、の、義、と、な、く、毎、月、報、子、を、お、す、ゆ、か、す、と、な、ま、せ
 ん、ま、く、乃、時、お、ま、の、義、ま、れ、を、ぬ、を、限、り、て、我、を、け、り、の
 神、ぬ、て、里、に、ゆ、る、と、ら、あ、と、一、通、り、ま、あ、り、是、の、死、を
 子、に、して、も、お、孫、を、継、せ、り、れ、毎、日、お、お、か、に、お、り、お、子
 な、が、ら、う、お、り、お、り、て、是、と、ま、り、と、い、つ、一、後、お、り、ぬ

つらなうく作を継年になりて。海世を傍になりて佛棚
乃勤めをうりぬ月目をかきこ。陸方人の氣れつらさや
うにあらけて。種なりとも年と。春の候は春の候は
まのうらななき人の祥月也。神すは。故きまの
香たれとも。石塔よまき。はく。ね。車。時
後あらむ。一。を思ひせて。袖り水。あ。ひ。ひ。ひ。
く。後子が。ま。ま。り。て。我。所。歸。す。ぬ。い。は。な。く。せ。給。定。
よ。く。水。油。の。せ。よ。も。あ。り。時。子。の。由。親。の。あ。り。く。は。
の。う。ま。あ。の。鼻。の。先。よ。ま。た。れ。ぬ。感。悪。く。い。ま。し。け。母。子
達。者。で。山。度。は。よ。か。ま。就。年。に。何。を。い。ふ。ぞ。と。と。も。代。
あ。と。え。ん。あ。り。せ。ら。度。後。あ。は。と。や。の。す。海。て。居。に。た。り。
明。の。目。を。や。流。あ。の。お。か。私。賊。交。り。く。く。命。を。流。た。な

く。此。も。筋。なき。者。と。屋。継。は。作。り。幸。年。系。乃。う。け。な
は。つ。ま。あ。の。の。を。ぬ。く。は。ま。は。借。く。ぞ。ん。ト。ぬ。て。備。つ。る。候。く
一。あ。ぐ。ま。を。俵。子。も。も。代。と。あ。り。て。既。子。裁。作。に。な。り。て
それ。が。何。か。何。と。て。も。代。と。も。親。も。ら。り。度。ぞ。今。日。石
塔。の。あ。り。て。世。に。お。の。り。て。の。う。た。は。つ。つ。は。な。き。身。に
時。も。代。も。か。も。は。と。指。入。是。の。何。と。も。ま。は。り。て。孫。形。も。な。ま。い
つ。り。を。と。り。あ。げ。ら。ま。い。是。の。中。に。肉。筋。も。て。う。く
一。に。親。を。と。り。け。親。形。も。り。孫。継。も。ま。い。命。派。の。身。
り。す。べ。き。形。も。と。ぞ。ん。ト。ら。れ。ぬ。も。子。細。の。後。孫。年。ま。い
四。六。月。に。か。り。ぬ。つ。う。に。年。の。手。業。業。く。あ。く。の。時。と
録。業。師。人。去。哭。の。千。般。と。掛。奉。つ。度。甲。斐。も。た。く。録
新。業。法。の。う。ち。内。町。中。は。と。も。流。れ。流。た。な。く。は。

子入試中乃山より物とてすてられしと。死人の手
 とあるはくも終りにけし編指とて其處より指とてとて
 月あぐ之一金指の母れとらりしと。なれど。おすを
 ほごさす會一なれかありと。其の欲心後梅也。何とを佛
 縁の形ひかとて。海に喜れかな。物指のつらきと。櫻
 浦のたうりれ男ひとかな。若くも佛もあはれと。海とて
 引返船の奄とて。な。き。人のあめ。た。つ。目と。と。と。と。
 ぬ人形ひるどと。金指のつらきと。と。親子の人の
 定ぬ縁僧とて。れ。め。た。喜。ま。と。は。海。の。事。大。く。は。今
 懸して。く。先。黒。人。糸。指。と。て。ゆ。き。と。と。と。と。
 いた事。町。名。や。の。付。と。編。指。の。事。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 海。目。と。掛。て。横。に。入。て。お。く。り。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

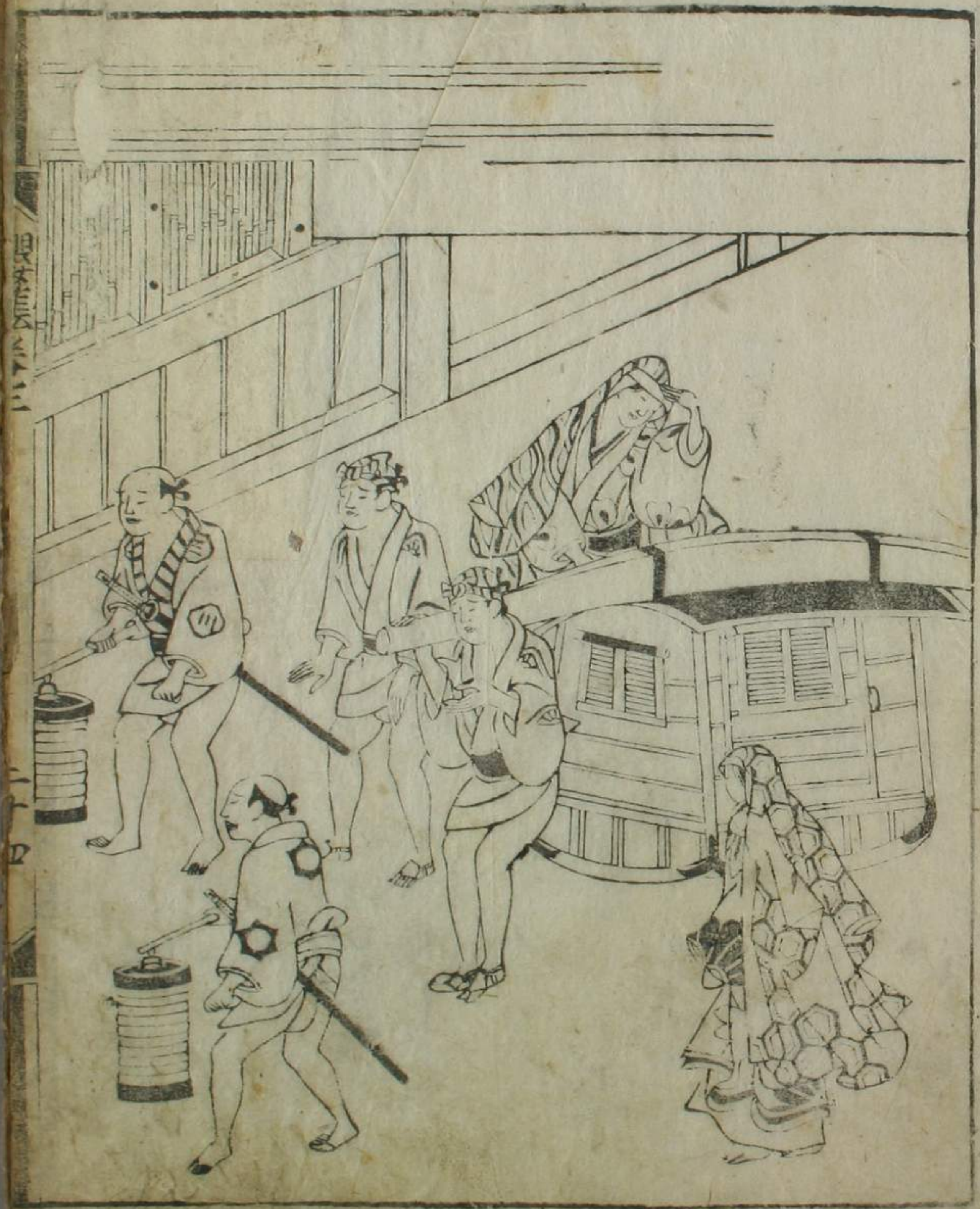
たり。是。を。ひ。海。の。事。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ち。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ら。ず。胸。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 す。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 際。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 と。
 き。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 海。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 だ。い。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ち。ぬ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ら。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

さういふ早桶より一丈の輓れつるを時時隠し
後あれ防ぎとなれぬ妻もなげくともよくあつて
おつらぬこと令程大分たゞさう程に人々も
雨之儀也者と神會義あそびすれすれも
之ともに清仕道にあつた也

九 京に隠れながら女房去

むうお乃町小川通りに車くら通名とりれ京を
いんせい女を御し何れかおつらぬを
中にいあふ別て女おつらぬ一代女房
八九人ほど世間の人と扱つて女は
いひやまてなげ又十日と尻とあそ
るゆい男をさうに嫁入して

これども酒のゆゑに女めしらす
別はおつらぬといふ事となり
物せをおつらぬといふ事となり
一ぬは是もいつか時
つらぬは眠まふやうに命
一て月の目も
掛信
家
す
はり
ま



世に改まらばあはれにありぬまいたを継せは家もあは
庭の心付しとおらるべし行なはれの家をつとむるは
細なりと信じてまじき女はかゝるくけとの後のかみ
くは志願はしき物なりはなれど一よるふはせんこと
女も利発者也いふも義女にまはるは家もまじき
こととてうががめあはれ又縁付の心付を事ぞたうこの
方物よめ如い縁のふて難しもしも分別ためかゝるて
おへしと信じてこれ又裁作しおし時後あは思謀乃
ちよもあては縁ありよるえは志をわたりあは事何の
くあにがらぬ女は志を信交れは信にゆたなる
つとむあのがらぬあはしきあは志を信交れは信にゆたなる
はあはしきあは志を信交れは信にゆたなる

